

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (四国)	◎	その他小売 [ショッピングセンター]（総務部担当部長）	販売量の動き	・11月から開始された地域クーポンが土産・飲食店舗を中心に多く利用されており、売上に大きく寄与している状態である。
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・新型コロナウイルスへの感染が無くなったわけではないが、今秋以降は大きな感染の波は起こりそうにない状況にまで沈静化している。物価の上昇はあるものの、多くの人が新型コロナウイルス感染症発生前の生活を取り戻せる期待感を持ち、消費も上向いてきていると考える。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・外国人観光客の数が新型コロナウイルス感染症発生前よりも増加しており、これはレジャー産業にとっては良い傾向になっている。ただし、顧客の動きとして以前より夜の引上げが早まっているように感じる事が不安材料である。また、仕入れ等の経費が物価高の影響を受けて経営を圧迫しており、難しい状況が続いている。しかし、顧客の増加は良い傾向にあると考えている。
	○	スーパー（店長）	単価の動き	・販売単価上昇の割に販売点数が低下しておらず、結果として客単価が増加している。
	○	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・来客数が9月以降、前年比100%を超える水準を継続している。
	○	スーパー（人事）	販売量の動き	・商品単価の上昇がある一方で、販売点数の減少が続いていたが、少しずつ状況が改善している印象を受ける。
	○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・来店時にマスクを着用しない人が増加した。客の様子が新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻った印象を受け、それに伴い来客数や購買量も増加している。
	○	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・今月は、予想されていた暖冬とは異なり、比較的寒い日も多く、気温には適度な動きがあった。それに伴い、商品の売行きは2～3か月前は相当厳しかったが、現状そこそこの単価上昇もみられ、状況が改善されているように考える。
	○	その他専門店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・年末のお歳暮に関してはまだ早い時期だが、少しずつ売れており、景気が徐々に良くなっている印象を受ける。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・11月に当地域で選挙が行われたが、通常、選挙月は客が減少するが、今回は目減りしていない。さらに、人手不足でタクシーの稼働率が低いため、ドライバー1人当たりの客数が増加した。
	○	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・物価上昇はやや落ち着いてきた印象を受ける。販売金額もやや上向いてきている。
	○	設計事務所（所長）	販売量の動き	・持ち込まれる情報も多く、仕事の量はあるものの、人手不足で受けきれないため、景気が良いのか悪いのか分かりにくいところがある。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・観光客を含めて、来客数がかなり増加している。しかし、飲食店を中心に人手不足がかなり深刻な状態であり、十分な対応ができていない状況になっている。
	□	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・飲食店への納品や家庭用の配達においても、販売数量は横ばいであり、なかなか売上が伸びない。
	□	一般小売店 [書籍]（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は低調であったが、外商売上は好調であり、両極端の結果となった。
□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・物価が上昇し、商品単価も上がる一方、販売点数は前年を下回っている。結果として、企業としての売上は増加しているが、増税などにより実質賃金が上がっていないなかで、景気が上向いているかどうかについて問われると、プラスマイナスゼロの印象を受ける。	
□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・前半の3連休は人流が活発で、売上も前年と比べて好調に推移したが、気温の低下とともに人流や売上が鈍化している。	

	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・現在も原材料の価格高騰、販管費、人件費、物流費の上昇が続いている。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・下見客は増えている印象だが、当日購入するのは急ぎの方のみという印象を受ける。
	□	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・客単価は前年比104%で推移しているが、来客数が前年比5%の減少が続いているため、売上の伸びがない。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・予約状況は安定的に推移している。都市部の宿泊施設がインバウンド向けにかなり値上がりしており、また、円安傾向の改善で海外旅行も価格が高くなっているため、割安感から顧客に選択されている。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・来場者数の推移をみると、変化はみられない。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・商品の買い控えがあるように考える。
	▲	商店街（代表者）	それ以外	・主婦の皆さんが食料品などの物価の上昇に悲鳴を上げている。
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・景気は2か月ぐらい前より悪いと考える。電話注文や営業活動を行っている割に取引先からの注文が少なくなっている。よくメーカーや取引先と話をしたが、良い話題が出ないため、年度末に向けて心配である。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・数か月前と比べ、段々と平日の来店客が減ってきている。繁華街の飲食店では来客がみられるが、それ以外の店舗は減ってきている。また、来店客の中には単価の低い商品を選んで購入する人が目立って増えてきた。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・来店頻度が減り、来客数が前年を大きく下回っている。
	▲	スーパー（統括担当）	来客数の動き	・物価上昇により単価が上昇しているため売上は維持されているが、来客数が減少しているのは良くない傾向である。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・来客数、売上、単価共に低下傾向が続いている。購買意欲の低下というよりも、物価上昇に伴う生活防衛や節約志向が強まっていると考える。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・長納期化の影響により、オーダーストップ中の車種が多い。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注状況が8月以降前年比で減少傾向にあり、11月においては更に悪化している。
	▲	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車の発表により客の動きがあるが、受注可能車種・生産可能台数の影響もあり、売上が減少傾向にある。
	▲	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・円安の進行と物価の上昇に対し、個人所得の増加が追い付かず、個人消費の拡大気運が乏しい状況である。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・毎年9月や11月は売上が低下する時期なので、来月に期待している。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・とにかく来客数が少なく、地方の小売店は厳しい状況ではないか。物価の上昇が進んでおり、洋服など商品の買い控えの可能性も考えられる。他県の同業者からの話によれば、外国人観光客が多い都会では売上が過去最高という話を聞くが、地方では厳しい状況である。
	×	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・今月は暖冬の影響で秋物衣料の売上が前年比84%と大幅に悪化している。さらに、客の節約志向もあり、客単価も鈍化している。
企業 動向 関連 (四国)	◎	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・上期と比較しても、前年比でみても、受注量が増加している。
	○	食料品製造業（商品統括）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格を引き上げた結果、利益が大幅に改善できており、これにより来年の給与へ還元できる可能性が大きくなっている。

	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・12月から一部商品を値上げするため駆け込み需要によって受注が増えているが、それ以外の店頭での販売はさほど多くないとみられる。観光地や首都圏、大都市の小売店は順調であるが、地方の小売店は厳しいところがある。今後、円安の影響による原材料や染色化学薬品等の値上がりで、小売価格の更なる値上げを検討する必要があるが、併せて消費は落ち込むことも懸念される。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・下期の引渡物件が増加しているため、受注量は大幅に改善した。
	○	鉄鋼業（総務部長）	受注価格や販売価格の動き	・前年来の受注価格値上げ交渉も、比較的順調に進み、その効果が出始めている。
	○	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・人材不足は大いに感じるが、売上自体は戻りつつある。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・インバウンドを含めた観光客の回復や来客数の増加、受注量の堅調な推移から、年末年始も業績は堅調に推移していくと考えられ、景気は引き続き回復基調であると考ええる。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は玉ねぎ、人参、ねぎ等、夏場の高温による作況不良で品薄状態が続いている一部品目を除き、例年並みからやや下回る単価で推移している。今月は年間のなかでも野菜全体の平均単価が最も安い月で、物価の上昇もあり消費者の財布のひもは固い状態である。また、気温は一時的に低くなってきたが、高い日も多く、鍋需要も低調であることが価格に影響している。
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原料価格の高騰により価格を上げざるを得ない状況となったが、受注量が大幅に減少している。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・我が国は大規模な工事が実施・計画されており、需要は堅調に推移している。海外は緩やかな景気回復を背景に、アフリカを除く全ての地域で需要は増加傾向にある。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギーの仕事をしているが、バイオマス関係の飼料案件が決まっており、少しずつ浸透してきたと考える。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間工事共に受注量が鈍ってきた。
	□	通信業（総務担当）	それ以外	・ボランティア活動等の社外イベントの参加者数に特に大きな変動がなく、イベントの開催機会自体も余り増減がみられない。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・物価高にも慣れてきており、大きな変動はみられない。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣に登録するスタッフ数は大きく変動していない。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・県内サービス関連事業者を中心に求人数は増加しているが、人材の流動性が低く、採用者数は大きく変化していない。そのため、人手不足が続いている事業者が多く、景気は横ばいである。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・特に変化がみられない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・大学生の新卒採用内定率が前年より若干良い状況で推移している。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・コロナ禍以降、広告宣伝費の経費を抑える企業が増加し、それが定着している印象を受ける。
	▲	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・新規求人数に占める派遣求人数の割合が令和5年4月以降で最も高くなった。物価高騰や最低賃金改正などの影響で、企業は厳しい経営状態が続いている。今後の見通しが不透明ななかで、人手不足を補うために派遣で対応しようとしている企業の様子が見える。
	×	—	—	—